



亀戸中だより

“笑顔と本気で真剣な姿”のある学校

本校教育目標：「思いやりの心をもち、主体的に行動できる人間を育成する」
「探究」「敬愛」「挑戦」



令和7年11月20日発行

江東区立亀戸中学校

<https://kameido-chu.koto.ed.jp/>

発行者 校長 三浦 秀樹

「拍手の意味」 主体性と豊かな心を育む

校長 三浦 秀樹



私が今年度、4月に着任にて驚いたことがあります。それは生徒の拍手です。

亀戸中学校の全校集会・学校行事等で私を含めた教職員の講話の後、生徒は心温まる拍手をしてくれます。形式的なものではない、生徒の主体性と思いやりの心が表れている拍手を、私たち教職員は非常に嬉しく感じています。

念のためにお話いたしますが、私の講話が生徒に対して注意を促す内容の場合は、生徒はその場の状況を理解し、拍手をしませんでした。私は生徒自身が状況を考え、拍手していると思っています。

* 残念ながら入学式・卒業式等は、式の進行上、拍手を制限する場合があります。そこは生徒に事前に話しをします。

【拍手を通して育まれる「主体性】】

生徒の拍手は、話を聞き、その内容を受け止め、共感し、

自分なりに評価したという、能動的な心の動きの表れを感じています。

教育現場では、校長・教員の講話の後、「よくできました」と言う意味で捉えられる拍手は、校長・教員に対して失礼なので、拍手しないようにと指導する学校があります。私は学校現場に入った時から、この考え方違和感を覚えていました。例えば、異動した教員の離任式での感動の言葉、卒業式後の担任教員の生徒への思いやり溢れる言葉の際に、生徒は自然と拍手をします。

そもそも以前私が勤務していた会社では、社長・部長の講話で、社員は話しの内容を判断し拍手をしていました。

私は、生徒の拍手は「心に響いた」という気持ちを、言葉ではなく行動で表現する主体的な意思表示と捉えています。主体的な意思表示は、学校生活や社会で求められる「自ら考え、判断し、行動する力」の基盤となります。他者の意見をただ受け入れるだけでなく、自分の考えを素直に表現する行為として拍手は重要な自己表現といえます。

【拍手が示す「思いやりの心】】

生徒達の拍手は、話し手である私を含めた教職員へ、気持ちを伝える最高のメッセージです。講話のために準備し、生徒達に伝えようとした私たち教職員の「本気」を理解し、「先生、伝わりました」という温かい気持ちを返してくれたとしたら、教職員と生徒、お互いを理解し合えたことになります。

私は生徒と教職員の一体感を大切にし、さらに素晴らしい学校を学校の主役である生徒を教職員が支える形で実現したいと考えます。

今後も生徒達が前向きな気持ちになれるような講話を教職員一同、心がけていきたいと思います。